



文久元年酉

周防花丘

年賀

分おれむの春も 月千花 曲高

春をたふるおる方の八岐 竹響

子年乃春れ鶴子子の日て 花枝

和ふふ年う海さあさる 柏溪

血さかー子い楽いの極乃月 菊青

一とまううよあき一七夕 杜葉

夢懐く昔の情をうらむ 桂南

今招一手ううなとやう 和楽

惚眼の鬼もゆよ打をうり 誘む

狗よわうるお妙島の世に反 荻野

ほろよきうむ積をきりう 志々

候よみ種のおろ子節ら 艾風

杉葉つる春又去をきりて 花月

むふ例ゆくおありは十 雲京

五月あよおの歩信の厚名所 竹井

禱一ツ々る藤の大冥 高





引きよめて老を去らふ可る月
木の子もせこよた芝乃高
琴 殿

正月や竹の子並の世帯向 和生
梅えの扇は白く卯日糸 清む
雪乃家まきあやふより 菴お
ちあくと芽はる梅の梅は 花珠
子ももる松も若や緑丸 ちん
老木も解乃あり卯梅 文風
梅えんや雪そししつる晩の障 如月
志ふやうは月影そく梅は 高京
山吹や竹若き男と糸 後 竹井
只あぬ八重山吹の雪しう糸 梅南
梅くまおるやうし月の表 梅溪
達しちのうも雪めり葉あ糸 林蘇
子殿のやえと出さ だ輝石 万香
お老ももしけるせきよ
まらぬやまの梅をりかり船 汀雪

辛卯のし 周防徳山

災祝

正月の梅や松乃二柱 梅馬
畑産出る菴系此中 麦園
王梅とち陰のにちりて 梅屋
梅も柳も老るる雑柳 煎白
三月の笑眉まき梅妹 梅芝
一お語のそぬ 梅 入 梅溪
七夕のほきあを老るし梅 梅里
何武隈川をさるちりち 如空
先老む一梅も推乃茂陰 如空
卯一あしふ梅人老の梅 文芝
粥すも老るそきく梅 文志
展之候乃梅の字に梅り 花秀



候あふきと持て居るきむの節 鼓月

碓も路とありぬきむ 杏園

板あては跡はぬたき証 奉行

奈ききき 赤山 辰 子字

厚きやの空定ふきおまの月 可祿

構を移し行神の意 可雪

末ぬ人をまの浦に抱きし 笠屋

えりし川老の独麦きく 悟一

牛屋さん五つる 京 糸 真

きて只あく伯文情のあ 園

抜目あきんて居る又く 辰

待柳の煙文さちり元 白

孫れ一圓座もあも官仕 強

竹の都くみぬ乃指 候

移あふ谷徒乃 しろ侯 里

湖より月尔あふり 谷

仙流を垂る流川 柳女屋 志

葉あくゆく柳乃無種 秀

長柳よりくす柳乃無種 圃

字紙の紙をそとくあり 行

七柳の上はよある 根白草 一

ほききれ 花乃 下 辰 子字

五乃巴の字よりさすし 雲

霞のさきあり 霞をすあり 月

芳柳や咲けよその枝しき 栄屋

鹿角の房打さきく 柳系 辰白

切几巾を繋めく 糸柳 文芝

連あくは吹くく 春の柳く 子字

ふりしは泥を掃き 柳心 可雪

暮さきしつてけのきしきまのあ
 静さやちよあつてまの静
 海山よんのうらぐはるま
 え船乃尻は大ききけし
 徳子のまもせきしきま
 丹後ふきまよ力やまのま
 笠のまのまの隠るあま
 おのまや院のめしきまのま
 おのまやけま中乃誰し
 大橋やまま一踏梅法師
 正月おたしひきやま男
 音のまのまのまのまのま
 友まのまのまのまのま
 おまのまのまのまのま
 りんまのまのまのまのま

梅里
 可産
 志秀
 松原
 如令
 梅屋
 志秀
 信秀
 文志
 致月
 高行
 杏園
 麦園
 出高

幸あのと

周防急地

景祝

上下の通。祝あり門の松
 部もまのまのまのまのま
 庭人は眼よおんまのまのま
 燈投するまのまのまのま
 待文て梅栗祝よ山お月
 児まのまのまのまのまのま
 さのまのまのまのまのまのま
 化のまのまのまのまのまのま
 入のまのまのまのまのまのま
 名まのまのまのまのまのま
 備人のまのまのまのまのま
 通のまのまのまのまのまのま
 あまのまのまのまのまのま
 まのまのまのまのまのまのま
 まのまのまのまのまのまのま
 家もまのまのまのまのまのま

梅投
 梅二
 舟舟
 高岳
 深泉
 小次
 疎橋
 平雅
 高院
 季寂
 披
 艮
 梅
 二

ふゆのぬ被自の葉の青
草も木も多しく彼等の法を
まの首くちまの風さつてあり
我意をむくみ園子候はほ
杉も木も多し霧の作は
史 止 庭 春 巴

暖や留まると向ふ言新
は葉の脈候もささくさ
枝乃乃まのれとささく川向
むちりて於定とありま川
まの葉やあそをまれておのま
流ゆくありまのり影は
まのり、思ふもや木麻のま
雪の慶うお葉とあり榎くさ
極生乃大門我く彼を
史 耕 文 梅 止 芝 庭 文 巴 冥 園 梅 春 榎 史 浮 木 麦 園

子